

平成21年度 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273300317		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風		
所在地	千葉県四街道市物井字金鑄塚1596-4		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/">http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の要望を取り入れた、外出や外食、その他大きな行事を毎月実施している。  
入居者の思いや願いを大切に、気持ちに寄り添う支援をすることで、可能な限り一人ひとりの自己実現の達成を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念の他にホーム独自の「安全で楽しく家庭的」というスローガンを創り、管理者及び職員は日々のケアで実践する努力をしている。入居者に対する節度ある接し方は教育の成果だと思われるが、決して慇懃無礼というのではなく、しかし、馴れ馴れしいというでもない、きれいな敬語が使われていたのが、外部の者にも心地良いものであった。それでいて、入居者も職員も和気藹々としている。管理者は年3回、職員と個別面談を実施しており、職員の思いを聞くようにしており、運営にも反映するようにしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価(2ユニット共通) および外部評価結果 (全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より、会社としての理念の他、「安全で楽しく家庭的」という当GHだけの独自スローガンを掲げています。独自スローガンは、実現するために、ミーティングで話し合っています。	職員がいつでも目にするような事務所に掲示し、全体会議やユニット会議の場でも確認するようにしている。管理者、職員で日々のケアの中で実践するように努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会から夏祭りのお誘いや近隣の小学校から招待状が届くなど、地域の一員として認識され、交流をしています。事業所も、学校生徒の社会科見学や課外授業を受け入れ、協力しています。	自治会に加入しており、行事に参加している。自治会長は運営推進会議のメンバーでもある。入居者と職員と一緒に病院の薬を取りに行くついでに買物したりする等、地域の一員として生活している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや見学は積極的に受け入れています。また、認知症のケアに関する相談にも対応しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価結果を報告、また、現状の報告や意見交換、質疑応答などを行いサービスに反映できるようにしています。	家族会も兼ねて1年間に2回開催した。ホームの現状報告等をして、家族の意見や要望を聞く機会にもなっている。	家族が多く参加している点は素晴らしいが、その他の構成メンバーの参加が少ないので、開催日時を調整して、参加者を充実させ、さらに開催頻度ももう少し増やしていくことが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各市町村への挨拶や、各事業所等の研修会にも積極的に参加しています。運営推進会議にも担当者に参加いただき、意見を頂いています。	高齢者支援課の職員が運営推進会議のメンバーに入っており、日頃から連携を取るようになっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、会議やミーティングなどで正しい理解が出来るよう学び、ケアに取り組んでいます。階段など急な下りのある危険な場所には施錠しており、家族には説明し、納得頂いています。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ただ、鍵については、建物の構造上、危険を回避する為に家族了解の下で施錠している。	自由に出入りできないことの弊害について家族とも話し合う機会を持ち、職員の見守りと連携で、少しずつでも鍵をかけないケアを始めることが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束廃止研修を受講しており、高齢者虐待防止関連法や身体拘束についてGH会議や全体会議などで取り上げ、学んでいます。マニュアルも作成しています。		

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(2ユニット共通)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいるので、グループホーム会議や全体会議などで取り上げ、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての理解を深めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、全て読み上げ、説明をしてから同意を得ています。また、本人や家族からの質問には納得していただけるまで詳しく説明しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議などで、ご家族や入居者の意見などを吸い上げています。また契約時に、苦情意見窓口として行政機関の連絡先の記載もしており、家族に伝えています。	家族会を兼ねた運営推進会議の場等で、意見を聞くようにしている。また、意見箱に入っていた声を受け、古くなっていったソファを取り替えたこともある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や全体会議などで、職員の意見や提案を聞いています。また、個別に聞くこともあります。	年3回の個別面談や全体会議、ユニット会議と職員は意見を言える場がたくさんある。日中の業務の組み立て等の提案もあり、反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施し、職員個々の悩みや課題を把握し、解決に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には一定期間、管理者・リーダーまたは経験豊富な職員がつき、指導育成しています。勉強会も開いています。また管理者の育成も計画を立てて、随時研修も受けさせています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流があり、訪問したり情報交換をしています。また、同法人の近隣センターとも交流を図り、合同の勉強会を月に1度行っています。		

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(2ユニット共通)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階からなるべく入居者本人の状況を知るよう心掛けています。入居までに1度はホームに来ていただいたり、ご自宅へ訪ねる等し、本人とよく話をし聞き取るようにしています。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みは本人が同席せず家族が来る 경우가多く、ホームに来られた際や自宅へ尋ねた時には、本人同様に家族の希望や困っていることをよく聞き取るようにしています。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に迅速な対応が必要と判断した場合、適宜他サービス利用のアドバイスや進め方なども伝えるようにしています。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中での職員と入居者の枠にとらわれない心の交流を大切にしています。調理の仕方や野菜の育て方を教えて頂いたり、昔の話などを通して、学んだり支えあったりしています。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回家族会を設け、交流を促しています。また、行事や外出の際にはお知らせし、一緒に参加していただいたり足を運んで頂く機会を増やしています。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から特に禁止が無い場合、訪問者は歓迎しています。本人が訪問者を思い出せない時には同席するなどし、支援しています。	入居者の知り合いが訪問した時に、話が噛み合わない場合もあるが、職員が間に入り双方が楽しい時間を過ごせる様に配慮している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話にはさりげなく交わりを持ち、他の入居者が孤立しないように配慮しています。また、レクリエーションや行事・日常生活を通して信頼関係を築けるような支援に努めています。			

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(2ユニット共通)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や医療系介護施設に転居された入居者や家族とも関わりを持っています。お見舞いへ行ったり、家族からの報告があるなど、良いお付き合いをしています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での関わり合いから、入居者それぞれの意向・希望の把握に努めています。意思疎通が困難な方には、それまでの生活歴や、家族にも相談し検討しています。	意思疎通の困難な入居者の場合も表情などから本人の意向を把握するようにしている。また、家族の協力を得て情報を得るように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人家族からの聞き取りや、入居後も本人・家族と良く話し、普段の会話などからも把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、総合的に把握しています。会話や行動なども申し送り、ささいな変化もとらえるように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との関わりの中で思いや意見を聞き、アセスメント・職員の意見交換・担当者会議を通し、介護計画に反映できるようにし、介護計画が適切に実施されているか毎月モニタリング、評価をしています。	家族の話はノートに書きとめ、遠方に住む家族には電話で希望を聞いている。月に一度のカンファレンスで職員の気づきを話し合い、それを基にして計画を作成し、モニタリングしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や生活の様子、いつもと違う言動などを個別ケース記録として記録しています。ファイリングし、いつでも職員が確認できるようにしており、情報共有の徹底を図っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や歯科サービス、訪問リハビリを利用しているが、希望によって外の床屋へ行ったり、併設のデイサービスとの連携で、一緒に行事を行ったり利用者と一緒に楽しみなど柔軟な支援をしています。		

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(2ユニット共通)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校からの児童の訪問や行事招待、自治会主催の地域のお祭りへの参加など、協力しながら支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時の同意の上、本人はもちろん家族とも連携を取り、協力病院とも良い関係を維持していますが、希望の病院がある場合はそちらを優先しています。適切な医療を受けられるように支援しています。	入居者のほとんどがホームの協力病院をかかりつけとしている。しかし、もともとのかかりつけ医がいる場合は受診を支援している。病院の送迎は家族が基本だが、場合によっては職員が付添うこともある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センター内看護師との連携が充分取れており、日常での健康管理や医療的な相談をしながら支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行った際に医師や看護師などと情報交換や相談をして連携をはかっています。早期退院を目指した医師からの説明の際には、なるべく家族に同席していただいています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族や協力病院との面談や話し合いを充分に行い、それぞれが納得できる方針を打ち出し、頻繁な連絡と相談の上、医師・事業所看護師等との連携で1番良いと思われる支援をしています。	家族の希望で、ホームでの看取りを経験している。入居者のかかりつけ医の往診と職員体制の強化で乗り切った。今後も個々に家族や関係者と話し合いをしながら、方針を決めていくことにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際は、職員は緊急マニュアルに沿って対応しています。また、救命救急講習も職員順番に受講しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、年2回避難訓練が行われており、全入居者参加しています。夜間を想定した避難訓練も行いました。近隣住民に避難訓練のお知らせをしていますが、合同訓練には至っていません。	入居者も参加して、夜間を想定した避難訓練を実施している。しかし、非常勤職員も含めた全職員が訓練に参加するまでには至っていない。	夜間を想定した訓練の実施は評価できる。今後は全職員の訓練参加と、いざという時に地域の協力を得られる体制作りが望まれる。

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(2ユニット共通)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、本人の尊厳を損なう情報は会話にしないなどの配慮をしています。記録等は個人情報保護法にのっとり取り扱っています。	入居者を尊重した丁寧だが暖かい職員の言葉遣いは好感が持てる。日常の会話でも誇りを傷つけないよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事やしたい事など、自分の好きな事を行えるような働きかけをしています。また、安全を確保した上で行動の自由を制限しない言葉かけをするなど、のびのびと過ごし自己決定できるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合に無理やり合わせるのではなく、一人ひとりの生活リズムを大切に、できるだけその人の思いや状態を配慮する支援を心掛けています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えなど、意向や相談にのりながら決めていきます。毎月1回訪問理美容を利用したり、希望があれば近隣の美容室や床屋にも付き添っています。一人ひとりの希望のおしゃれを楽しんでいただいています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、配膳・下膳・調理などにかかわって頂いています。誕生日などには本人の食べたいもの・好きなものを用意するなど、希望も出来るだけ取り入れるようにしています。	調査当日のメニューは寄せ鍋だったので、一段と会話も弾み、入居者の食も進んでいるようだった。職員は給仕をしながら、入居者と一緒に食事と会話を楽しみ、家庭的な雰囲気だった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に毎日の食事は栄養士によるバランスの取れた献立をもとに提供しています。食事、水分チェック表により一人ひとりの状態を把握し支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きなどを行っています。本人に任せるだけでなく、声かけや介助を行い清潔を保持しています。また、必要に応じて訪問歯科に来ていただいています。		

四街道ケアセンターそよ風 自己評価(2ユニット共通)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて排泄パターンを把握し、一人ひとりのパターン、習慣に合わせて声かけや誘導をしています。声かけや交換の際にも自尊心を傷つけないよう排泄の支援をしています。	排泄チェック表でパターンを把握して、タイミングを図ってトイレ誘導をし、自立にむけて支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、コントロールが必要な場合は医師の指示のもと行っています。また、1日に1度必ず体操をする、朝牛乳を飲んでいただくなど自然排便を促しています。			
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしており、入浴の希望を伺い安心して入浴ができるような声かけや対応の工夫をしています。1階の大浴場は準天然温泉で、入居者も利用して温泉気分を味わって頂くこともあります。	2日に1回が基本だが、お風呂は毎日沸かすので、希望があれば毎日でも入浴が可能である。入浴拒否の人には就寝前に声をかけたり、帰宅願望がある入居者の場合は外に出て、帰った時にそのまま「さあお風呂にしましょうか」と誘う等工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めていないので、状況に応じその人の生活習慣を尊重したペースで休んでいただいています。散歩や体操などで一人ひとりの生活のリズムを作り、安眠策をとっています。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に入居者の薬の意味を把握し、増減や変更についても把握しています。また、内服によって変化や異常があった場合は、家族と医師や看護師などの医療機関に相談しています。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意なものを理解し、生活の中で出来ることを見出し実現できるように、また、身体状況に合わせ、嗜好を楽しめるよう支援しています。			
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブやイベントなど、外出の機会を毎月計画しています。外出の希望があれば、職員が同行するようにしています。直ぐにできない時には説明し、納得していただくようにしています。	病院の薬を取りに行くついでに買物したり、クリスマスの時期には近隣の住宅街のイルミネーションをドライブがてら見に行ったり、できる限り外に出る機会を持つ工夫をしている。		



四街道ケアセンターそよ風 自己評価(2ユニット共通)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金はお預かりしていますが、買い物の際には本人に支払ってもらうなど、状況に応じて支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどは毎年書いていただいています。電話は家族の意向を伺って行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気によって照明を弱めたり、カーテンで調節しています。テレビ等は音量をほぼ一定に保っています。職員は声のトーンに注意し、ゆっくりとお話するようにしています。毎月のカレンダーや装飾など、入居者と一緒に考え製作しています。	管理者は飾り付けが施設っぽくなったり、保育園のようになってしまわないように配慮している。リビングは明るく、室温も程よく保たれている。食後をゆったりとソファで過ごしたり、寛げるスペースになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が各居室を気軽に行き来しています。また、エレベーター前や、洗面台の前にもソファを置くことで、入居者が思い思いの場所で過ごせるような工夫をしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、使い慣れたものを用意していただいています。家具等も入居者が使っていたものをお持ちいただいています。新しく購入するものは、可能な限り本人と一緒に行き選んでもらうようにしています。	神棚を奉ったり、家庭で使用していた椅子やベッド等それぞれ馴染みの品を置く等、一人ひとりに合った部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下の手すりや、キッチンなど低めに設計されており、入居者が使いやすいようになっているなど、安全と自立に配慮しています。また、居室は同じ造りのため表札をわかりやすくするなど工夫しています。		